

# 2022年度 活動報告書



一般社団法人 福島県精神保健福祉協会  
ふくしま子どもの心のケアセンター

## ▷センター名簿

### ①職員一覧

職名	氏名	雇用形態	職種
所長	矢部 博興	非常勤	医師
副所長（総務担当）	本田 邦之	常勤	事務
副所長（調査担当）	鈴木 勝昭	非常勤	医師
副所長（業務担当）	安部 郁子	非常勤	公認心理師
副所長（企画担当）	星野 仁彦	非常勤	医師
広報担当部長	松本 貴智	非常勤	公認心理師
主任事務員	平山 真実	常勤	事務
主任専門員	佐藤 則行	常勤	公認心理師
主任専門員	川島 慶子	常勤	公認心理師
専門員	本田 智春	常勤	精神保健福祉士
専門員	渡邊 宏周	常勤	公認心理師
専門員	山崎 鞠	常勤	公認心理師

### ②顧問一覧（氏名 50 音順）

所属	氏名	職名
福島県立医科大学医学部精神医学講座	板垣 俊太郎	准教授
福島県立ふくしま医療センターこころの杜	井上 祐紀	副院長
福島学院大学大学院心理学研究科	内山 登紀夫	教授
福島学院大学大学院心理学研究科	佐藤 佑貴	教授
福島県立ふくしま医療センターこころの杜	照井 稔宏	医員
公益財団法人磐城済世会 舞子浜病院	本田 教一	院長
公益財団法人星総合病院 精神科	本間 博彰	部長
福島県発達障がい者支援センター	増子 博文	センター長
東京医科大学精神医学分野	榊屋 二郎	准教授
医療創生大学心理学部臨床心理学科	増山 晃大	助教

## ▷ 所長挨拶

一般社団法人 福島県精神保健福祉協会  
ふくしま子どもの心のケアセンター  
所長 矢部 博興

東日本大震災から 12 年目、2021 年 4 月 1 日に福島学院大学駅前キャンパスに開設された当センターは 2 年目を迎えました。COVID-19 はようやく終息に向かっていますが、2022 年 2 月から始まったロシア軍によるウクライナ侵攻が続いております。この 1 年間、ウクライナの人々の苦境は言わずもがなですが、同国にあるチョルノービリ（ロシア語でチェルノブイリ）原発へのロシアの攻撃なども行われ、それによって原子力発電所事故の恐怖が蘇った被災者も多く居ります。さらに、小麦の最大食糧庫であるウクライナと、天然ガスの最大輸出国であるロシアの戦闘は、世界に食料とエネルギーの深刻な不足をもたらし、日本においても食料品やガソリンの値上げが続いています。ただでさえ 12 年前の被災と COVID-19 流行で傷つけられた心と身体は、その傷を癒やす間もなく三度傷つけられています。チョルノービリといえば、故安倍総理にも提出された国際専門家会議（2014 年）の提言書では、チョルノービリ事故後の経過を踏まえ「今後は放射能被曝そのものよりもメンタルヘルスに問題が集約される」と報告され、その会議で私は、ベラルーシの子ども達の経験から、福島県の心のケアに最低 30 年を要すると主張させていただきました。被災後の 12 年の今、その間に児童期と思春期を送った子ども達や長期の避難生活を余儀なくされた母子への影響が顕わとなって参りました。2015 年から楡葉町、川俣町、浪江町、飯舘村、2017 年から富岡町と居住制限が解除され帰還された県民への心の支援が一層重要となっています。

本報告書は、当センターの 2 年目の子どもの心のケアの活動をまとめたものです。前回の報告書でも申し上げましたように、福島県における子どもの心のケアは、センター開設前の 10 年間、子ども未来局・児童家庭課のふくしま子どもの支援センター事業、教育庁・義務教育課および高校教育課の事業、県の委託を受けた福島県立医大の県民健康調査（こころの健康度・生活習慣に関する調査）の一部、県の障がい福祉課の委託を受けた精神保健福祉協会が運営する心のケアセンター事業の一部などが、それぞれ個別に行われ、各々の成果はありましたが、密接な協力関係が構築されてはおりませんでした。教育庁・義務教育課からの要望と子ども未来局・児童家庭課からの委託を精神保健福祉協会が受けて当センターが設立され、同じ協会傘下の心のケアセンターや関係機関と垣根のない効果的な心の支援が可能となりました。本センター事業として、乳幼児の発達支援、家族支援、学校支援、地域支援に加えて、支援者支援を行って参りましたが、その一環として福島学院大と連携した多職種連携フォーラムなどが充実して参りましたし、今後は当センターと心のケアセンターの有機的な連携、さらには統合が望まれています。センター職員の絶え間ない努力により、活動は着実に成果を上げております。

前述しましたように、福島県の心のケア事業は最低 30 年を要します。皆さまのなご一層のご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

## ▷ もくじ

---

センターについて・・・・・・・・・・・・・・・・	1
<b>I 乳幼児の発達支援</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・	<b>2</b>
(1) 震災後の発達の気になる子どもとその保護者への支援	
(2) 地域の母子保健体制整備に関連するサポート	
<b>II 家族支援</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・	<b>7</b>
(1) 保護者支援プログラム	
(2) ままカフェ	
(3) 県外話会・交流会	
(4) 山形市等への委託事業	
<b>III 学校支援</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・	<b>12</b>
(1) 心の健康相談会	
(2) こころの授業	
(3) 学校巡回相談	
(4) 心の健康アンケート	
<b>IV 地域支援</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・	<b>19</b>
(1) 地域巡回相談	
(2) 要保護児童対策地域協議会	
(3) 関係機関との連携	
(4) ふくしま心のケアセンターとの連携	
(5) その他の地域支援	
<b>V 支援者支援</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・	<b>21</b>
(1) 主催研修会	
(2) 他機関研修会への講師派遣	
学会等報告・・・・・・・・・・・・・・・・	30

## ▷ センターについて

### (1) 概要

ふくしま子どもの心のケアセンター（以下、当センター）は福島県より事業委託を受けた一般社団法人 福島県精神保健福祉協会が設置・運営する機関である。福島学院大学、福島県立医科大学と連携しながら、東日本大震災後の福島の子どもたちへの支援活動を行うことを目的として、2021年4月に開設された。

当センターは総合的な子どもの心のケア対策として、さまざまな子どもの問題への支援や、子どもに関わる支援者の人材育成などを行っている。

活動は5つのカテゴリーに分けて実施しており、本報告書では下記のカテゴリーにそって、詳細を報告する。

## I 乳幼児の発達支援

浜通りを中心に、震災後の避難等の影響により支援を必要とする親子について、地域と連携し、医師及び心理士や精神保健福祉士等が早期の発見と支援をサポートする。

## II 家族支援

ペアレント・プログラム等の保護者支援に関するプログラムを実施希望する事業所への講師派遣協力を行う。また、保護者向けのグループや講演会などの協力も行う。

## III 学校支援

避難に該当した地区を対象に、医師及び心理士や精神保健福祉士等が学校と連携して支援を行う。また、県内の小学校から高校までの児童生徒を対象に、メンタルヘルス問題に関する予防的心理教育プログラム（こころの授業）や、学校へ訪問してのコンサルテーション等を実施する。

## IV 地域支援

県内全域を対象に、ふくしま心のケアセンターや地域の支援機関と連携しながら、必要に応じて医療支援や会議等への参加を行う。

## V 支援者支援

子ども支援に関する研修会を主催し、支援者への支援を行う。その他、学校や事業所が企画する研修会への講師派遣を行う。

# ▶ I 乳幼児の発達支援

## (1) 震災後の発達の気になる子どもとその保護者への支援

### ① 事業概要

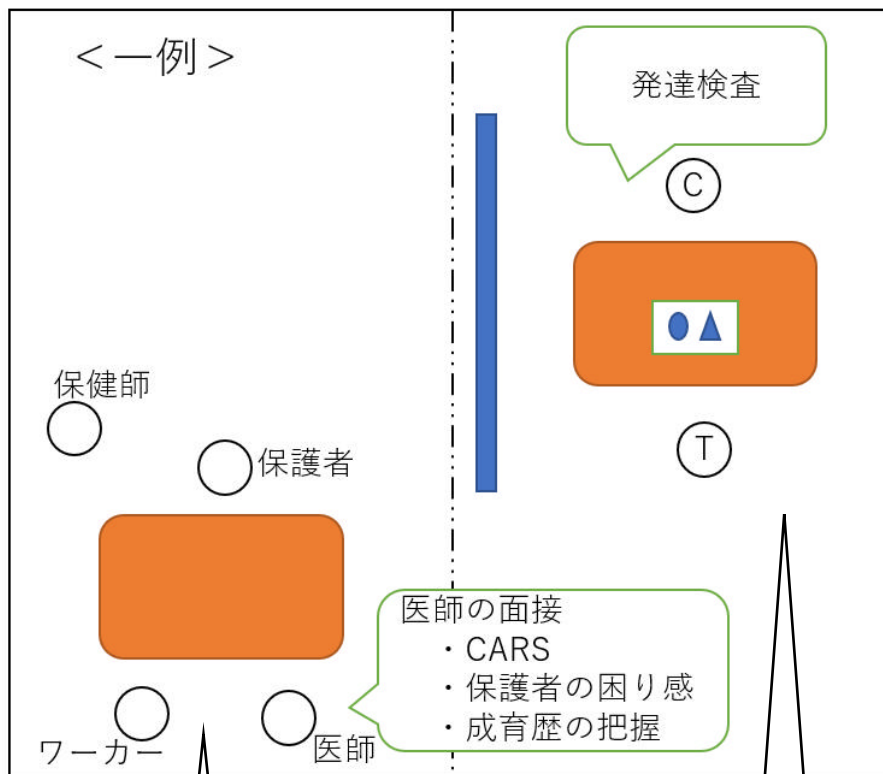
1. 医療支援事業：原発避難の影響を受けた地域における親子のメンタルヘルスに関する診察及び検査を実施し、地域の支援者と連携して支援を行う。医師（児童精神科医）、心理士、精神保健福祉士等の専門職が現地の支援機関に赴き実施する。
2. コンサルテーション：原発避難の影響を受けた地域の保育所・幼稚園・こども園等からの要請を受け、子どもの実態把握を行い、日々の保育や各子どもの発達に関する助言指導を行う。

### ② 医師派遣先一覧及び相談会対象児童数

No.	日付	市町村（会場）	担当医	対象児童数
1	5月26日(木)	大熊町（大熊町役場いわき出張所）	内山	2
2	6月9日(木)	広野町（広野こども園ひろぱーく）	内山	※コンサル
3	7月14日(木)	檜葉町（檜葉町コミュニティセンター）	内山	2
4	8月4日(木)	富岡町（富岡町保健センター）	内山	1
5	9月2日(金)	双葉町（勿来酒井団地集会所）	内山	2
6	10月13日(木)	檜葉町（あおぞらこども園）	内山	1
7	10月19日(水)	広野町（広野町保健センター）	栴屋	1
8	11月17日(木)	浪江町（相双保福いわき出張所）	内山	2
9	12月1日(木)	富岡町（富岡小中学校）	内山	※コンサル
10	12月15日(木)	浪江町（浪江町ふれあい交流センター）	栴屋	2
11	1月12日(木)	広野町（広野町保健センター）	栴屋	2
12	2月2日(木)	大熊町（大熊町役場いわき出張所）	内山	2
13	2月9日(木)	檜葉町（あおぞらこども園）	内山	※コンサル
14	3月9日(木)	富岡町（富岡町保健センター）	内山	1
		計	14回	

### ③ 相談会の様子

・レイアウトイメージ



## (2) 地域の母子保健体制整備に関連するサポート

### ① 事業概要

市町村等が実施する乳幼児健診や相談会等において、被災した乳幼児及びその家族等への心の相談を行う場合に、臨床心理士等の専門職を派遣し支援する。本事業は「特定非営利活動法人ビーンズふくしま」に業務委託し実施している。

### ② 実績（2022年12月末時点）

派遣事業名	回数	派遣人数
1.乳幼児健診への派遣（被災地域への専門職派遣事業）	251回	304名
2.運動遊び教室事業への派遣	31回	82名
3.リフレッシュママクラス事業への派遣	10回	28名
4.心の健康グループミーティング事業への派遣	30回	61名

※回数、派遣人数は全て延べ

### ③ 専門職派遣事業に関するアンケート調査について

「被災地域への専門職派遣事業」は、当センター設立以前から福島県により実施されていた経緯がある。2021年度の開所と共に当センターへの委託事業として位置づけられた。昨年度は、「被災地域への専門職派遣事業」について、今後の支援体制整備及び大規模災害時支援のための基礎的資料とすることを目的とし、専門職を対象としてアンケート調査を実施した。今年度は、専門職の派遣依頼のある市町村の担当者を対象に、地域の子どもの発達支援における現状及び派遣された専門職の役割等に関するアンケートを実施した。

1. 実施期間：2022年11月～12月にメールにて対象者に一斉にメールにてアンケートの配布・回収を行った。
2. 対象：2022年度の専門職派遣依頼のあった市町村及び相双保健福祉事務所いわき出張所の事業担当者である。
3. 回収率：専門職派遣を行った24か所（予定含む）の中、12か所から回答を得た（回収率50%）。
4. 結果：専門職派遣事業に関する全体の満足度は、「大変満足」9件、「まあ満足」2件、その他（調査実施時点で事業未実施）1件の結果であった。  
次に、派遣事業を大きく3つ（乳幼児健診、発達相談会、運動遊び等）に分類して結果をまとめた。



## ① 乳幼児健診事業への派遣（回答 7 件）

【派遣専門職：心理士、言語聴覚士 等】

乳幼児健診における心理士に期待する役割・業務について選択式（重複可）で回答を得た。結果は次のとおりである。

- ・子どもの行動観察（7 件）
- ・子どもの発達の見立て（7 件）
- ・保護者のメンタルヘルスの見立て（7 件）
- ・保護者への子育てに関する助言（7 件）
- ・保護者の悩み（子どもに関すること以外）相談（5 件）
- ・カンファレンスでのスーパーバイズ（4 件）
- ・支援者へのサポート（1 件）
- ・その他（0 件）

また、1 回の乳幼児健診事業における心理士への相談件数については、次の通りである。

- ・ 0～1 件（0 件）
- ・ 2～3 件（5 件）
- ・ 4～5 件（2 件）
- ・ 6 件以上（0 件）
- ・ その他（1 件）

（感想コメント）

- ・乳幼児健診時に心理士に来ていただくことで、こども園から相談のあった児への対応や、健診事後の確認をすることができている。（2 年目）
- ・主に、派遣いただいている心理士には母のメンタル面の相談や児の発達の偏りなどの悩みに多く対応いただいている。保護者からも「相談して良かった」との声をいただいている。一方、心理士の特色もあり、保健サイドで心理相談に誘導したくても心理士によっては対象を選定される場合がある。（11 年目）
- ・コロナ禍の健診は滞在時間短縮化に努めねばならず、保護者が抱える課題への対応を心理士と保健師が役割分担出来ることはよかった。
- ・保護者が子育ての不安、ストレス等について相談が出来る場になっている。

（現在の乳幼児健診における課題など）

- ・震災後、家族形態の変化や地域コミュニティの変化により子育て基盤が脆弱化し、育児力の低下、子育ての孤立化がみられ、発達に支援が必要な児や育児不安・ストレスを訴える保護者が多くなっている。また、原発事故等の避難地域からの居住者も数多くおり、新たな土地での子育てに不安を抱く保護者も多くいる。
- ・発達が気になるケースが多い。働いている保護者が多く、事後の教室や相談会に誘っても参加が難しい。療育の場が少なく、待機となってしまう。
- ・健診で気になる児の支援へのつなぎ方が課題と感じる。保護者の方と子どもの見方をどのように共有するかなど。
- ・発達に心配がある児の小児科医受診の待機期間が 1 年以上であること。健診での小児科

医の確保が難しい。

- ・少子化が進み、子どもと接する機会が減ってきているためか、子どもの発達の特性の有無にかかわらず、子どもの状況に対応しきれない保護者もあり、遊びや人との関わりの経験が少なく発達がゆっくりなタイプが増えてきている印象がある。
- ・コロナ禍もあり、感染予防のために行動の自粛をしていることから活動範囲が狭まり、保護者自身もストレスフルな状況がある。育児負担が増えてきている印象。
- ・こども園に入園後、集団に入ってから発達の課題が明確になってくるお子さんが増えてきているような印象がある。3歳児健診でどのようにキャッチアップをしたらよいか、どのようにフォローしたらよいか。
- ・ケースについて避難元との調整が難しい。

## ② 運動遊び等への派遣（回答3件）

- ・派遣専門職の資格：運動指導士、セラピスト講師、保育士、理学療法士、作業療法士 等（感想コメント）
- ・震災後の生活習慣の変化や新型コロナウイルス感染症による外出自粛等で子どもだけでなく大人も体を動かす機会が減っている。肥満傾向の子どもの増加傾向なども踏まえ、親子で身体を動かす（運動の）機会の確保に役立っている。（11年目）
- ・無理なく参加者に合わせて活動を展開していただけるので、参加者が無理なく活動を楽しめている。（3年目）

## ③ 発達相談会等への派遣（回答8件）

【派遣専門職の資格：心理士、幼稚園教諭・保育士、運動指導士、言語聴覚士、その他（助産師、歯科衛生士、アロマ講師、ヨガ講師、栄養士、助産師）】

（感想コメント）

- ・心理士には、児の行動観察及び保護者への子どもの関わり方について具体的な助言をいただいている。保護者の育児への気づきの促しにもつながっている。（9年目）
- ・いわき市内へ避難しているお子さんの健診後の発達相談の場として、子どもの特性や関わり方に関する助言をいただくことで、その後の支援（療育や医療機関等）につながりやすくなる。（10年目）
- ・当自治体では臨床心理士がいいため、健診や保育園での観察や面接を通して子どもの対応に関するアドバイスをもらえるので大変勉強になる。（10年目）
- ・専門職を地域で見つけることは難しく、人材を探すことからスタートすると事業開始までの道のりが長い。この事業があることで町の負担が減った。（5年目）
- ・心理士の方と情報を共有することで、その後の支援にも役立っている。（12年目）

## ▶ II 家族支援

### (1) 保護者支援プログラム

#### ① 事業概要

児童発達支援、放課後等デイサービス等の子ども支援に関わる施設と連携のもと、県内で子育てをすることへの悩みや子どもの発達に不安を抱える保護者等を対象に保護者支援プログラムとして、今年度はペアレント・プログラムについての講師派遣協力を行った。

#### ② ペアレント・プログラムとは？

ペアレント・プログラム（以下、ペアプロ）は、応用行動分析に基づいたプログラムである。子どもや自分自身について「行動」で把握し、良い行動を具体的にほめることを行う。また、母親の子どもへの見方を変えるという認知の変容を重要視している。「障害」という言葉を使用しないこともあり、子育て支援に広く活用が可能である。

1クール6回と終了後3カ月程度後に行われるフォローアップセッションで全7回実施し、10名程度を目安とした保護者がペアでの話し合いなどに取り組む。

#### ③ 2022年度の実績

今年度の派遣実績は8か所（県北、県中2か所、県南、会津、南会津、相双、いわき）であり、それぞれ1クールの実施であった。参加者数（参加申し込みをして、1クール中に1度以上参加した人数）を図に示す。

図には、「保護者」と「支援者」の実数を示しているが、これはペアプロが保護者支援の場であると同時に、子ども支援に関わる支援者も参加することで、ペアプロのポイントを理解し、日々の支援のための研鑽の場とする目的も兼ねているためである。

全か所を合計すると、ペアプロの参加者は保護者64名、支援者48名であった。

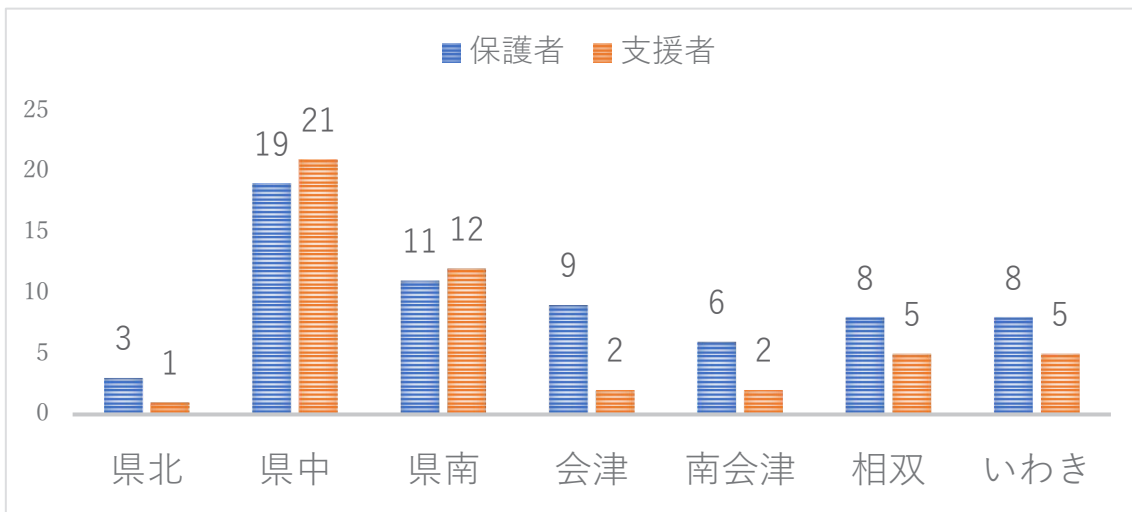


図 ペアプロの地区別参加者数（実数）

#### ④ 参加者の感想（一部を抜粋）と実施の様子

- ・怒るより、ほめた方が、私も子どもも気持ちが楽になり、他のことまでできるような相乗効果もあったりしてとてもよかった。
- ・同じように子育てで悩む方と意見交換できてよかった。
- ・子どもの良い部分によく気づけるようになり、落ち着いて子どもと向き合えるようになってきた気がします。子どもにとってはもちろん、自分が楽になれていることが嬉しいです。
- ・書き出したことでいいところや少しでもできているところが多くて思っていたよりがんばっていたと気付かされた。ギリギリセーフで褒めることができるという方向に変わったと実感できた。
- ・これまで、自分のことも、子どものこともできないことに目を向けてばかりいましたが、できていることに目を向けられるようになりました。できていないと思っていたことでも見方を変えれば解決できることもあることに気づけました。
- ・「ほめる」「認める」ことを通して、子どもにとっても、家族全員、自分にとっても意欲や前向きさを与えることができました。



#### ⑤ 情報交換会

福島県内でペアプロの実施・計画をしている2市町村と11事業所を対象に、各地域の開催状況や事業実施のための工夫（参加者のリクルート方法、会場準備、スタッフの役割など）について、オンラインで1時間半ほど、情報交換を行った。他の地域や事業所での取り組み方などを知ることができ、次年度以降のペアプロ開催に向けての参考になったとの感想をいただいた。

## (2) ままカフェ

### ① 事業概要

東日本大震災で被災した県内の親子の集いの場として「ままカフェ」を各地域で定期的  
に開催し、子育て支援を行う。母親の仲間づくりや子どもの支援ニーズ把握等の場としての役  
割を担う。本事業は特定非営利活動法人ビーンズふくしまに業務委託し実施する。

### ② 実績（2022年12月末時点）

地域	回数	参加者	
		母親	初参加
ままカフェ@ふくしま (会場：福島県青少年会館)	9回	25名	5名
ままカフェ@こおりやま (会場：NPO 法人子育て支援コミュニティ プチママン)	8回	33名	13名
ままカフェ@けんなん (会場：マイタウンしらかわ、棚倉町保健センター、浅川 町保健センター)	7回	26名	12名
ままカフェ@いわき (会場：Wendy いわき)	4回	17名	11名
ままカフェ@みなみそうま (会場：原町保健センター)	8回	31名	9名
ままカフェ@ふたばぐん (会場：ふれあいセンターなみえ、浪江町地域スポーツセ ンター、富岡町総合福祉センター)	7回	31名	7名
合計	43回	163名	57名

### ③ 参加者の感想（一部を抜粋）と実施の様子



- ・同じくらいの子供と遊ぶ機会がないので子どもにいい刺激になったし色々な月齢のママとお話ができ楽しかったです。(南相馬市)
- ・コロナが怖くて出かける機会がめっきりなかったのが気分転換になりました。(郡山市)
- ・スタッフの方もママさんたちもあたたかくて安心してられました。大泣きしても「大丈夫」って言ってくださってありがたかったです。(浅川町)

### (3) 県外話会・交流会

#### ① 事業概要

東日本大震災で被災し、県外に避難し子育てをしている人を対象に、県外での子育てについての思いや悩みなどを共有する集いの場として県外で話会・交流会を開催する。また、連携団体と共に、親子が避難先でも孤立しないよう、相談を受けたり情報提供を行ったりする。本事業は特定非営利活動法人ビーンズふくしまに業務委託し実施する。

#### ② 実績

##### 1. 県外交流会（2022年12月末時点）

地域	実施回数	参加人数 (親子計)
山形県：NPO法人やまがた育児サークルランド	4回	23名
山形県：山形市避難者交流支援センター	2回	2名
宮城県：一般社団法人マザー・ウイング	9回	84名
東京都：NPO法人こどもプロジェクト	6回	67名
静岡県：NPO法人地域づくりサポートネット	1回	12名
埼玉県：ここカフェ@川越	5回	48名
その他団体への協力	3回	61名

##### 2. 会議等への参加・協力

参加回数：4回

対象者：65名

#### ③ 参加者の感想（一部を抜粋）と実施の様子

- ・コロナ禍で交流会に行くのをためらっていたが来てよかった。話すことで気分がすっきりする。楽しかった。（東京都）
- ・ママさんたちが福島県出身というだけで安心感が違う。毎月この交流会が楽しみ！（仙台市）
- ・今の福島の状況が知れて良かった。令和5年に帰還するがその前に個別で話をすることで安心して帰還することができる。（山形市）



#### (4) 山形市等への委託事業

##### ① 事業概要

山形県に避難している被災児童及び保護者を支援するため、山形市及び yama\_colon labo に支援業務を委託した。

山形市では、避難者交流支援センターを設置し、専門スタッフによる相談支援や、児童及び保護者間の交流を図った。

また、yama\_colon labo は、アロマセラピー等の自然療法を用いたセルフケアや地域文化を学習する講習会を開催し、心身のリフレッシュを図るとともに、地域の人たちとの交流を行った。

##### ② 実績

###### 1. 山形市避難者親子交流事業（山形市委託）

交流会等を毎週開催し、368 名参加（2 月末現在）。

###### 2. 山形県への避難家族を対象とするストレスケア事業（yama\_colon labo 委託）

9 月及び 10 月に講習会を 8 回開催し、被災児童及び保護者は 10 名参加。

##### ③ 参加者の感想（一部を抜粋）と実施の様子（ストレスケア事業）



- ・友達と会えて嬉しかった！
- ・子連れでリラックスできました。
- ・いい香りの中、ものづくりをするのは良い時間でした。
- ・とても楽しく過ごすことができました。家の庭にある草花での利用に参考になりました。

## ▶ III 学校支援

### (1) 心の健康相談会

#### ① 事業概要

原発事故の原発避難の影響を受けた地域に所在する学校を対象として、在籍する児童生徒への支援を行う。

児童生徒に関する学校からの情報や、心の健康アンケートで得られた結果をふまえながら、医師（児童精神科医）と心理士による個別の全員面談を実施する。その中で語られた児童生徒の感じている不安や心配に関して対処法などの助言を行うとともに学校と共有を図り児童生徒支援の充実を図る。

#### ② 実績

表 該当校での実施概要

校種	児童生徒数			実施 日数	スタッフ数		
	小学生	中学生	合計		医師	心理士	精神保健 福祉士
A校	0名	12名	12名	2日	2名	2名	0名
B校	28名	9名	37名	3日	8名	6名	0名
C校	33名	14名	47名	3日	11名	10名	1名

2022年度の心の健康相談会の実施日数はA校が2日、B校が3日、C校が3日の、計8日間実施された。なお、当日派遣されたスタッフの人数は、A校に医師2名、心理士2名、B校に医師8名、心理士6名、C校に医師11名、心理士1名、精神保健福祉士1名が派遣された。前年度は県外の医師にも協力いただき、児童生徒との面談、および学校との共有に関して、Zoomを用いて実施することもあったが、今年度はいずれの日程も県内の医師に協力いただくことができたため、感染対策を徹底しながら対面で実施した。

#### ③ 実施時の様子

当日は、各ブースに児童生徒を振り分け、医師と心理士がペアになって面談にあたり、面談実施中の学校側との調整は、主に精神保健福祉士が行った。

面談終了後は、医師と心理士の各ペアより、担当した児童生徒の見立てを学校と共有した。共有の際、各学年の担任の先生や、管理職の先生から、児童生徒の様子や関わり方について具体的な質問もあげられた。学校の先生と、医師、心理士、精神保健福祉士といった専門職が協力し合いながら、避難地区該当学校の児童生徒の心配事や対処法を共有する機会となった。



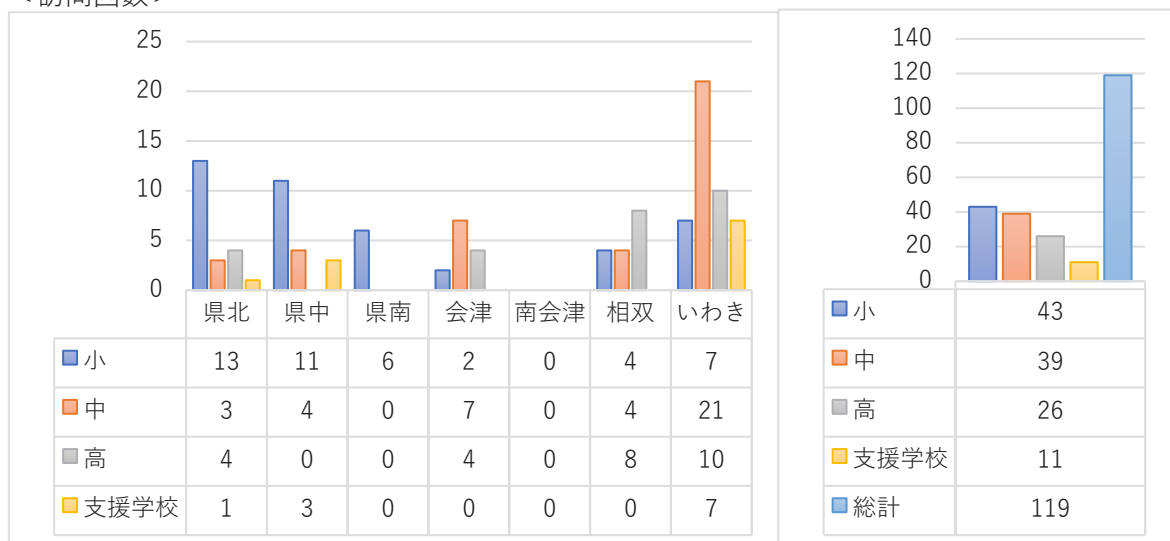
## (2) こころの授業

### ① 事業概要

県教育委員会の協力のもと、県内全域の小学校から高校までの児童生徒を対象として、メンタルヘルスに関する予防的心理教育プログラム（以下、こころの授業）を行う。授業の申し込みがあった学校へ当センタースタッフが訪問し、こころの授業を児童生徒に向けて実施する。

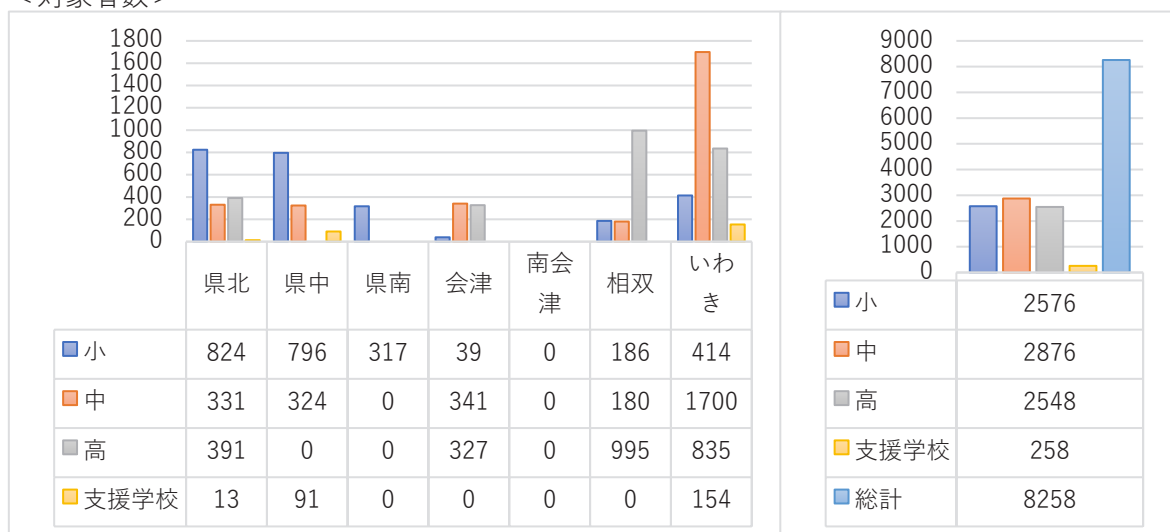
### ② 実績

#### <訪問回数>



2022年度は小学校に43回、中学校に39回、高等学校に26回、支援学校に11回、合計で119回（全て延べ回数）、こころの授業を実施した。

#### <対象者数>



2022年度は小学校2576名、中学校2876名、高等学校2548名、支援学校258名、合計で8258名（全て延べ人数）の児童生徒がこころの授業を受講した。

### ③ こころの授業の各ユニット

こころの授業では、現在3つのUnitを作成・実施している。小学生向けのワークシートと、中高生向けのワークシートと分かれており、表現などは変更しているが、各Unitで扱うポイントはおおむね共通している。それぞれの内容を以下に記載し、2022年度に受講した児童生徒の感想の一部を紹介する。

#### ▷ Unit.1：自己肯定感を高めることやストレス対処行動の獲得

##### ○ 自己肯定感を高める

まずは自分のいいところに目を向けるために、いいところとはどのようなところかを考える時間を与える。その際、いいところを見つけるためには他者と比較するのではなく、いつもの生活でできている大切な行動（適応行動）に目を向けさせる。自身の適応行動をワークシートに書き出し、グループワークを通して数を増やしていくことで、普段から自分は大切な行動ができていることを認識できるように促していく。

##### ○ 気持ちの切り替え方を学ぶ

落ち込みや悲しいなどの感情が続く際に、自分で気持ちを切り替えられることを知り、そのための心のチャンネル探しをワークを通じて実践する。

##### ○ 心を楽にする方法

自分でできるリラックス法の練習や、周りの大人や友達に相談することの大切さを確認する。

##### ・感想①（小学6年生）

授業を受ける前は、自分のよいところがよく分かりませんでした。授業を受けて、自分のよいところをたくさん見つけることができました。

##### ・感想②（中学2年生）

ストレスとの付き合い方がよく分かりました。これから嫌な気持ちになったらテレビのチャンネルを変えるように早く気持ちを切り換えられるようになります。

##### ・感想③（高校1年生）

「自分の良いところ」を考えても、あまりぱっと浮かばなかったのですが、適応行動について知って、このままの自分でもいいんだと思えて、少し安心できました。

##### ・感想④（支援学校高等部1年生）

自分の気持ちが落ち着かなかったり、落ち込んでしまった時には、好きなことをしながらリラックスしたいと思います。

▷ Unit.2：怒りの気持ちの調節とアサーションスキルの獲得

○ 怒りの気持ちに気づく

日常生活で起こりうる怒りを感じやすい場面で、自分がどれくらい怒りを感じるかを点数化する。また、集団実施することで同じ場面でも他者と自分は怒りの点数が違うことを確認し合い、自他の感じ方は違っていいことを保証する。

○ アサーティブな表現を考える

気持ちの伝え方の各パターンの特徴と、具体的な場面を提示して各パターンがどのような対応になるかを学ぶ。特徴を理解したら、実際に自分が言えそうなアサーティブなセリフを考え、グループワークを通して共有し合う。

○ 気持ちを落ち着かせる方法

強い怒りが沸き起こっているときの、クールダウンの方法を学ぶ。

・感想①（小学6年生）

自分がいやな気持ちになったときは、ちょうどよい言い方（相手も自分もいやな気持ちにならない言い方）をすると、自分の考えが相手に伝わるのが分かりました。

・感想②（中学2年生）

普段ストレスがたまることが多くてもはき出さずにため込んでしまっていたが、これからは気持ちを落ち着けてアサーティブに人と話をしようと思いました。

・感想③（高校2年生）

私はよくイライラしたり、非主張的になってしまったりと極端でしたが、これからはアサーティブな表現を意識して、人とやりとりしてみたいと思いました。

▷ Unit.3：考え方のクセに気づき、考えの幅を広げる

○ 感情と考えの結びつきを理解する

不安や悲しみなどの感情を抱きやすい場面の例を通して、人によって同じ場面でも違う感情が起こることを確認する。また、感情の背景にはそれぞれの考え方が結びついていることに注目する。

○ 考え方のクセに注目する

考え方のクセの種類について知り、自分に当てはまる考え方のクセがないかを、チェックシートを用いて確認する。

○ 別の考え方の練習をする

考え方のクセに気づいたら、それに振り回されずに距離を置いて別の考え方をするための練習をする。グループワークも取り入れ、様々な考え方に触れる機会とする。

・感想①（小学5年生）

心のメッセージには、色々なクセモン（考え方のクセをキャラクターイメージ化したもの）たちが送ってくるのが分かりました。

・感想②（中学3年生）

人それぞれに考え方のクセがあり、考えていることによって気持ちが変わることが知れて良かったです。これからは自分の考えの方のクセを意識してみたいと思います。

・感想③（高校3年生）

自分の考え方のクセが知れて良かったです。不安になったり、心配な気持ちが出てきた時には、いつもとは違う考え方をしてみようと思えました。

④ 授業時の様子



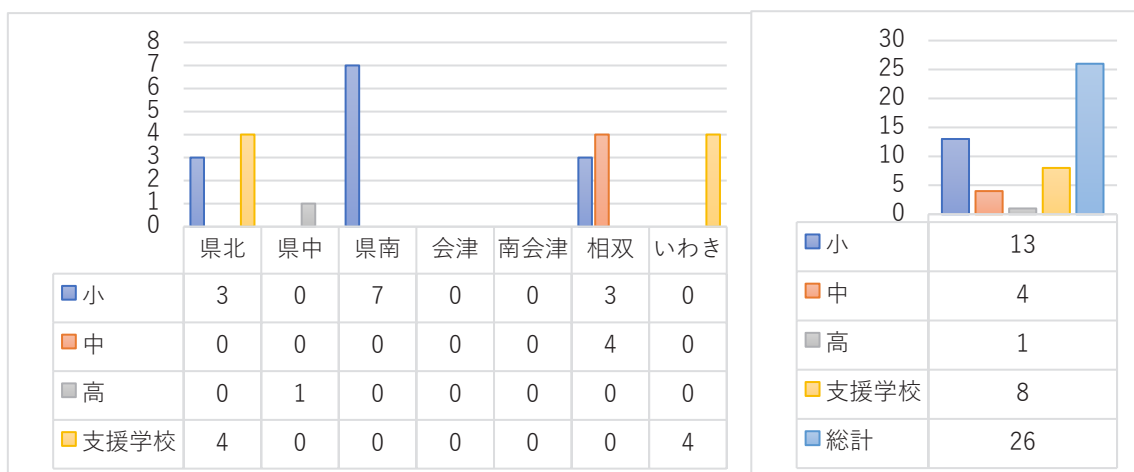
### (3) 学校巡回相談

#### ① 事業概要

申し込みがあった県内の学校に、内容に応じて医師、心理士、精神保健福祉士が訪問し、対象児童生徒やその保護者との面談、授業観察、心理アセスメント（心理検査）等を行う。また、必要な支援について教職員とのコンサルテーションを実施する。

#### ② 実績

<訪問回数（延べ）>



2022年度は小学校に13回、中学校に4回、高等学校に1回、支援学校に8回、合計で26回（全て延べ回数）、巡回相談を実施した。

#### ③ 学校巡回相談の様子

2022年度は原発避難の影響を受けた地域の学校も含めて、医師、心理士、精神保健福祉士がチームとなって訪問する学校もあった。

避難該当地域にある学校での巡回相談では、帰還後、気になる児童生徒の行動観察や、児童生徒との面談、学校の先生方やスクールソーシャルワーカーとの情報共有、およびコンサルテーションが主な内容となり、ケースによっては児童生徒の保護者への面談も行った。一例をあげれば、授業中に落ち着かない行動が見られる子どもへの関わり方に悩んでいる教員や保護者に対して、学校生活の状況と巡回相談での見立ての共有を行い、医療機関につながる必要性や普段の関わり方などについて検討した。

#### (4) 心の健康アンケート

##### ① 事業概要

福島県からの委託を受け、福島県教育委員会の協力のもと、被災による児童生徒への教育的・臨床的支援を目的として、9月に心の健康アンケートを行った。

アンケートは、

- ①心の元気さ（質問例：楽しみにしていることがたくさんある）
- ②心のイライラ度（質問例：からかわれたら、たたいたり、けったりするかもしれない）
- ③向社会的行動（質問例：私は、年下の子どもたちに対してやさしくしている）
- ④生活習慣（起床・睡眠時間、遊びについての質問）

の4項目からなり、各学校に配布されているタブレットで二次元コードを読み取り、オンラインフォームによって回答を得る形式とした。

##### ② 実績

表 アンケートを実施した学校数と児童生徒数

種類	校数
小学校	246
中学校	163
義務教育学校	5
合計	414

種類	年数	人数
小学校	3年生	6576
	4年生	6644
	5年生	7123
中学校	6年生	7415
	1年生	9749
	2年生	9835
義務教育学校	3年生	9903
	3年生	114
	4年生	129
	5年生	120
	6年生	124
	7年生	91
	8年生	109
	9年生	130
合計		58062

##### ③ 結果

アンケートの結果は、『アドバイスシート』という個票（PDF ファイル）で、学校に報告し、教育相談、三者面談、カウンセリングの場等で生徒の心の健康について相談する際の資料としたり、保護者宛に学校で印刷した個票を返却したりすることで活用いただいた。

## ▶ IV 地域支援

### (1) 地域巡回相談

#### ① 事業概要

県内の子どもに関わる施設と連携し、行動観察やコンサルテーション、保護者との面接などを通して地域での巡回相談を実施する。(※学校に関する巡回相談は「III 学校支援」を参照)

#### ② 実績

- ・ 幼稚園・保育所等への巡回相談：19回
- ・ 行政相談会への協力：25回
- ・ 乳幼児健診での相談業務協力：4回
- ・ 福祉領域での相談業務協力：1回

#### ③ 実施の様子

福島県沿岸部(相双)の保育所等への巡回相談会の場合、年少児から年長児までの子どもについて市の健診情報と園で気になる子どもの情報を事前に資料として確認した上で、園内にて行動観察を行う。その結果を踏まえ、担任及び園長・主任等に、各対象として挙げられた子どもへの対応の工夫や支援等について助言する。

主に発達の偏りや遅れのある子どもが多く、その他肢体不自由、染色体異常など、障害種も多岐に渡る。また、養育に係る問題を抱える家庭についての相談もある。

支援方針を検討するにあたり、何をどのようにアセスメントするか、子どもが安全で快適に生活することが出来ることが目的となる視点等、教材の工夫や教室のレイアウト、集団活動における配慮など、各子どもに合わせて支援方針を検討する。

### (2) 要保護児童対策地域協議会

#### ① 事業概要

震災後に虐待件数が増加している現状を踏まえ、県内の要保護児童対策地域協議会からの依頼を受けて協議会への参加等の協力を行う。

#### ② 実績

参加回数：5回

### **(3) 関係機関との連携**

#### ① 事業概要

県内の支援のためのネットワークを構築するため、福島の復興支援に関わる情報交換会や会議等への参加を行う。

#### ② 実績

- ・ふくしま広域心のケアねっと（コア会議・全体会議）への参加：7回
- ・子どもの心のサポートチーム協議会：1回
- ・双葉地域地方自立支援協議会こども部会：2回
- ・切れ目のない支援体制整備事業：1回

### **(4) ふくしま心のケアセンターとの連携**

#### ① 事業概要

ふくしま心のケアセンターとの定期的なケース検討会等を開催し、県内の子どもと保護者への支援をスムーズに行うためのネットワークを構築する。

#### ② 実績

- ・月例会議への参加：9回
- ・支援事例のカンファレンス：2回

### **(5) その他の地域支援**

#### ① 事業概要

県内の子ども支援に関わる支援者の希望のもと、個別スーパーバイズや、各種事業への参加・見学（子どもの発達支援への医師の陪席など）を通して、支援者の研鑽の機会を作る。

#### ② 実績

- ・支援者とのオンライン勉強会：6回
- ・ケースに関する個別SV：23回



## ▷ V 支援者支援

### (1) 主催研修会

子ども支援を行っている支援者に対し、スキルアップや指導者の育成を目的とした研修会を開催する。

#### ① 子どもの支援・多職種連携フォーラム

・参加者：10名

・会場：福島学院大学駅前キャンパス 6階 609教室

福島県の子どもの関わる医療・保健・福祉・教育等の支援者と、福島県の復興支援に関心のある大学生・大学院生を対象に、子どもに関わる多職種支援者の連携を図ることを目的として開催。「発達の偏りと不登校傾向のある対応困難な中学生の事例」について事例検討会、「発達障害を持つ子どもへの理解と対応」について講演会を行った。当日欠席の方が複数おり、予定より少ない人数での開催となったが、質問や意見がたくさんあり、活発な会となった。

併せて、地域の課題を関係者と話し合うワーキンググループを開催した。

#### 【参加者の感想】

- ・事例を提供していただいて、実際の不登校傾向の生徒さんへの対応をお聞きすることができて、ご苦労と連携の難しさを改めて感じ学ぶことができました。また、多職種が密に連携できる体制を作っていけることを切に願います。
- ・様々な子ども、保護者がいる中、1人で抱え込まず様々な人の手で子どもを育てていければと感じました。



## ② こころと子どもの連携 WEB 相談

ふくしま子どもの心のケアセンターとふくしま心のケアセンターの連携の一環として、ふくしま心のケアセンターの関わる子どものいる世帯等への支援について当センターの顧問及び福島県立医科大学の精神科医等が助言を行った。

	月	日	担 当	参 加 者	内 容
1	4	18	増子顧問	ふくしま心のケアセンター 基幹センター業務部 7 名	ふくここライン電話相談者への 対応について
2	9	12	佐藤医師 志賀心理士	ふくしま心のケアセンター 基幹センター業務部 2 名、 県北方部 2 名	知的障害のある 19 歳女性への 対応について
3	10	12	増子顧問	ふくしま心のケアセンター 基幹センター業務部 2 名、 県中・県南方部 2 名、富岡町 役場 1 名	母と二人暮らし 19 歳男性への 支援について
4	11	21	鈴木副所長 佐藤主任	ふくしま心のケアセンター 基幹センター業務部 2 名、 会津出張所 1 名	女性の抱えるアルコール問題、 希死念慮への対応について
5	12	27	安部副所長 川島主任	ふくしま心のケアセンター 基幹センター業務部 2 名、 相馬方部センター 3 名	小学校への就学を控えた男児へ の支援にあたっての留意するこ とについて
6	1	27	板垣顧問	ふくしま心のケアセンター 基幹センター業務部 2 名、 いわき方部 2 名	適応障害、うつ状態の女性への かかり方及び支援について
7	2	20	増子顧問	ふくしま心のケアセンター 基幹センター業務部 2 名、 ふたば出張所 4 名	隣町に転居・転校する予定の 登校渋りのある 11 歳男児への 支援について

### ③ 子どもの運動遊び支援者スキルアップ研修会

- ・参加者：17名
- ・会場：福島県青少年会館

幼稚園教諭、保育士、子育て支援センター職員等を対象に、支援者のスキルアップを図ることを目的として開催。乳幼児期における「運動」「運動遊び」の必要性を学び、室内や親子で行う運動遊びを実技を通して学ぶ。一つひとつの動きの目的や動きを通して見えてくる発達状況の確認、運動が嫌いにならない言葉かけの工夫、コロナ禍における運動遊びでのソーシャルディスタンスなどすぐに実践できる内容で行った。

#### 【参加者の感想】

- ・発達、知的に遅れのあるお子さんに対して、言葉で指示するには限界がありました。その部分へのアプローチや取り組む前のワクワク感は大人でも楽しめて大変勉強になりました。
- ・この研修を通して、体を動かしたりすることの大切さを改めて感じることができました。このマスクをして過ごす時世で子ども達にとってどれだけマスクというものによって表情や気持ちが伝わりにくいか、また、運動遊びによって言葉、表現の仕方によりマスクをしていても伝わるということがわかりました。とても良い経験になりました。



### ④ CAP スペシャリスト養成講座（5日間）

- ・基礎編参加者：実人数 17名（延べ 59名）
- ・実践編参加者：実人数 14名（延べ 40名）
- ・会場：会津若松市文化センター・会津若松市北会津支所（ピカリンホール）

子どもに関わる全てのおとなを対象に、暴力防止の専門家（CAP スペシャリスト）を養成することを目的として一般社団法人 J-CAPTA と共催で開催。児童虐待の歴史や関連法律、子どもの人権について学ぶとともに、地域で行われているワークショップの目的や流れを学ぶ。実践編では児童相談所の役割と機能についての講義を受け、地域で行われているワークショップの演習を行った。

#### 【参加者の感想】

- ・子ども自身の持つ力を引き出し、子どもを力づけ、守ることができるプログラムだということがよくわかりました。社会の中で自分らしく尊厳をもって生きられるようにするための有効な手段を教えてください感謝します。
- ・CAP ファシリテーター、トレーナーの方々の情熱を感じる研修でした。一緒に参加した方も「子どもを守りたい」「子どものために」という思いが共通していたので、意見交換なども深まりがありました。実践的な研修だったので、今後の仕事にも役立てることができると思います。



#### ⑤ 子どものための PFA 研修会

- ・参加者：20 名
- ・会場：白河市産業プラザ人材育成センター

子どもの支援、子育て支援に携わっている方を対象に人材育成を目的として開催。公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン協力のもと、地震や事故などの危機的な出来事に直面した子どもたちのこころを傷つけずに対応するためのスキル（支援者が共通して身に付けておくべき心構えと対応）について学んだ。

#### 【参加者の感想】

- ・具体例が多く、実践につなげるためにもとても勉強になりました。日常のたくさんの場面で必要な視点を学ぶことができました。
- ・座学だけではなく、ロールプレイを通して自分自身で体験することでより身につけることができたと思います。



## ⑥ 療育教材づくり

- ・参加者：46名
- ・会場：広野町公民館

発達に特性のある子どもの的確な状況把握と支援方法の理解及びスキルアップのため、一般社団法人8色（はちいろ）が運営する基幹相談支援センターふたばと共催で開催。子どもの行動を理解するために、切り替え場面での正しい対応方法を学び、実際に現場で使える療育教材（自立課題）の作成を行った。

### 【参加者の感想】

- ・日々の支援の振り返りができ、子ども達の行動のアセスメントの大切さ、観察の大切さ、手続きの大切さを再度見直す事が必要と感じました。
- ・本人にあった支援方法を考えるのは障がいのあるなしに関わらず大切なところであること、みなさんと一緒に考えることができる環境が必要だなと感じました。
- ・行動にはきっかけだけではなく、その子の特性や環境など背景にあるものを理解することが大事だと理解できました。



### ⑦ セカンドステップ研修会

- ・参加者：12名
- ・会場：福島市市民活動サポートセンター

「子どもが加害者にならないためのプログラム」であるセカンドステップの基礎を学び、教材を用いて現場で実践できる研修生を養成することを目的として開催。ディスカッションや実際の教材を使用しながらロールプレイを行い学んだ。

#### 【参加者の感想】

- ・初めてセカンドステップの研修を受け、今のクラスで使いたいところがたくさんありました。今まで対応をどうするか悩んでいたこともありましたが、どのように伝えていくかということをととてもわかりやすく学ばせていただきました。
- ・もっと早くに研修会に参加したかった程とても良い研修会でした。現状に悩み立ち止まっていたのでとても参考になりました。



### ⑧ 親と子どものふくふくトレーニングトレーナー養成研修（3日間）

- ・参加者：6名
- ・会場：福島県男女共生センター

行動療法の理論背景をもとに、子どもの問題行動を減らし、望ましい行動を効果的に身につけられるスキルを体得するプログラムを体験を通して学び、養育者や子ども支援に関わる仕事をしている支援者に伝えるトレーナーを養成することを目的として開催。各セッションについて、講義とロールプレイを通して最終日にはトレーナーとして模擬セッションを行った。

### 【参加者の感想】

- ・内容が充実していたことはもちろんですが、第一線での経験が豊富な先生方がトレーナーであったことで、ファシリテーターとしての立ち居振る舞いも学ぶことができ、非常に充実した時間でした。
- ・「こどものしつけ」に関する具体的な支援を丁寧に学習でき、有意義でした。実際にセッションを進行するにあたり、プログラムの内容を自分の中に落とし込む作業を行ったため、知識の定着に繋がりがやすいと感じました。



### ⑨ 「こころの授業」の研修会

- ・参加者：12名
- ・会場：相馬市総合福祉センター（はまなす館）

学校支援で行っている「こころの授業」について、教職員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等が現場で実践できるようになることを目的として開催。Unit.1 小学生バージョン（自己肯定感を高める、気持ちの切り替え）について実践を通して学んだ。

### 【参加者の感想】

- ・授業の実演もあり、自身のデモ授業もあり、大変勉強になりました。他の人達のデモの授業もたくさん見ることができ、参考になった。
- ・授業を見て、練習して、実践して…自分がすごくレベルアップしたように感じました。とても勉強になりました。早く授業してみたい！とワクワクしています。



## ⑩ 県外支援者研修会

・参加者：15名

県外避難者を支援している団体（ままカフェや親子サロン、相談会の開催等）との連携や、支援者のスキルアップを目的として研修会を開催。

「福島の子どもの状況、サポート」について当センター副所長安部郁子より報告をし、その後各団体と意見交換を行った。

※オンライン（zoom）で開催。

## (2) 他機関研修会への講師派遣

他機関から、当センターに講演会・研修会の講師依頼があり下記の通り実施した。

	年	月	日	主催	対象	担当	演題・内容
1	2022	4	14	ふくしま心のケアセンター	支援者	安部	大人の愛着障害について
2	2022	4	17	福島県公認心理師会	支援者	鈴木	公認心理師が知っておいたほうがいい精神医学の基礎知識
3	2022	5	25	平工業高等学校	教職員	佐藤	子どものレジリエンスを高める－自己肯定感や感情コントロールに注目して－
4	2022	6	6	西郷村立羽太小学校	教職員	佐藤	働く人のメンタルヘルス
5	2022	6	15	相双教育事務所	教職員	安部	虐待対応について
6	2022	6	29	相双教育事務所	教職員	佐藤	ふくしま子どもの心のケアセンターが実施している「こころの授業」について
7	2022	7	12	伊達市立掛田小学校	保護者	渡邊	自己肯定感を高める関わり方について
8	2022	7	19	北塩原村立裏磐梯小学校	教職員 保護者	渡邊	子どもの自己肯定感を高める関わり方～こころの授業のポイントをふまえて～
9	2022	8	24	福島県立平支援学校	教職員	佐藤	子ども自身が良いところを見つけたり、感情のコントロールをしたりするための支援について
10	2022	8	26	二本松市立岳下小学校	教職員	佐藤	子どもたちの自己肯定感について－こころの授業を通じた自己肯定感を高めるポイントや関わりについて－
11	2022	9	14	福島学院大学大学院附属心理臨床相談センター	支援者 市民	安部	むずかしい子どもにならない対応－ペアレント・トレーニングについて－
12	2022	9	15	福島県教育センター	養護教諭	佐藤	児童生徒のメンタルヘルスの理解と対応
13	2022	9	26	福島県立白河実業高等学校	教職員	佐藤 渡邊	教育相談部：こころの授業についての研修会



	年	月	日	主催	対象	担当	演題・内容
14	2022	10	5	福島県立若松商業高等学校	教職員	渡邊	子どものメンタルヘルスー自己肯定感や感情コントロールに注目してー
15	2022	10	11	県中保健所	支援者 保護者	佐藤	ひきこもり本人の理解ー理解を生かした関わり方ー
16	2022	10	21	二本松市立大平小学校	教職員	佐藤	児童生徒の自己肯定感を高めるための教師のかかわり
17	2022	10	27	石川地区学校保健講習会	養護教諭	渡邊	児童・生徒、教職員の心の健康について
18	2022	10	31	伊達市立保原小学校	教職員	佐藤	怒りの気持ちとの付き合い方
19	2022	11	7	会津若松市	支援者	川島	発達検査について
20	2022	11	9	福島市教育委員会	教職員	佐藤	いじめトラブルの防止と対応
21	2022	11	11	泉崎村立泉崎第一小学校	教職員	佐藤	予防的心理教育「こころの授業」についてー自己肯定感や感情コントロールを高めるためのポイントー
22	2022	11	22	学校保健会安達支部	教職員	渡邊	児童・生徒のメンタルヘルスに関して～こころの授業の実践をふまえて～
23	2022	11	29	たむら地方児童発達支援センター	支援者	川島	療育スキルアップ講座
24	2022	12	1	福島市立庭坂小学校	教職員	渡邊	アンガーマネジメント
25	2022	12	2	いわき市立汐見が丘小学校	教職員 保護者	渡邊	子どもの自己肯定感と感情コントロール
26	2022	12	12	福島県社会福祉協議会	支援者	佐藤	子どものメンタルヘルスとその対応について
27	2022	12	13	福島県立須賀川支援学校郡山校	教職員 保護者	渡邊	家庭と学校における児童生徒への心のケア-ストレスマネジメントについて-
28	2023	1	31	福島県福祉事業協会	支援者	川島	第2回 療育スキルアップ講座
29	2023	2	1	相双教育事務所	教職員 支援者	本田	児童生徒や保護者の支援に生かすペアレントプログラムのポイント
30	2023	2	17	福島市立北信中学校	教職員	渡邊	生徒のメンタルヘルスについてーこころの授業のポイントについてー
31	2023	2	17	西郷村立羽太小学校	保護者 教職員	佐藤	子どもの行動に注目し、ほめるポイントを見つけよう！
32	2023	2	25	中央地区健全育成推進 会連絡会	保護者 教職員	佐藤	コロナ禍における子どもの心のケアについて

## ▷ 学会等報告

当センターでの活動実践や調査結果などをまとめ、学会等での報告を行った。

	年	月	日	報告学会等	報告者	演題名
1	2022	6	26	第 127 回日本小児精神神経学会	安部	震災後の福島県の子どもの現状と課題
2	2022	10	9	第 76 回東北精神神経学会	渡邊	児童の攻撃性に対する単発型心理教育の効果
3	2022	10	9	第 13 回東北精神保健福祉学会	佐藤	小学校における単回型予防的心理教育プログラムの実践－自己肯定感を高めるための取り組み－
4	2022	10	23	日本ブリーフセラピー協会第 14 回学会議	安部	震災後の福島県の子どもの現状と課題
5	2022	10	30	日本教育カウンセリング学会第 19 回研究発表大会	星野	震災後の福島県の子どもの現状と課題

一般社団法人福島県精神保健福祉協会

ふくしま子どもの心のケアセンター 2022 年度活動報告書

発行日：2023 年 3 月 31 日

所在地：〒960-8505 福島県福島市本町 2 番 10 号

(福島学院大学 福島駅前キャンパス 4 階)

HP：<https://f-kodomo-care.org/>

TEL：024-524-0005

FAX：024-524-0006

印刷所：株式会社阿部紙工



